



式典総合プロデューサー

山根 一真

大雨のなか最高の演技を全うした福井力

福井国体は台風の影響による激しい雨の中、開会式を迎えた。天皇皇后両陛下にとっては30年間で最後に御臨席される国体開会式だけに、かつてない最高の美しさと感動を目指し約4年前から準備を開始した。2000人以上の規模の式典演技チームが揃うか不安だったが、吹奏楽、バレエ、ヒップホップ、チアダンスなど子供から高齢者まできわめて高い水準の方々が参集。猛暑の真夏、毎週末のように続けた練習で演技を磨きあげ、大きな自信を持って本番を迎えた。だが大雨は降り止まず、競技場は水田状態で足をとられて転倒しながらも、一人一人が精一杯の笑顔を絶やすことなく最高の演技を全うしてくれた。式典演技のテレビ中継を多くの方々が涙して見ていたという。両陛下の拍手は前例がないほど長く続いた。私も涙が止まらなかったが、福井県人の力とは何と凄いものかと感服、体育界の方々から「過去の国体で経験したことのない最高の演技」との評価をいただいた。福井国体・障スポでは多くの競技で優勝したが、「式典演技も優勝」だったと出演者の皆さんに伝えたい思いでいっぱいだ。



式典演技伴奏曲作曲編曲者

笠松 泰洋

国体を終えて

私は式典演技の音楽の作曲を担当しましたが、式典演技部会の参与という形で、4年間、国体の式典開始前30分の、開催県のアピールタイムで何をすべきか、の検討から参加させて頂きました。一番力を込めて主張したことは、演技に参加する全ての方々が、アート作品に参加することで得られる、創造の苦労とそれがもたらす喜びを感じて、参加が人生の一つの宝となるようなイベントにしたい、ということでした。これには常に関係者の皆様が賛同して下さり、この理念は一度も曲がらず、あの本番の日に実現したと感じました。自分の音楽で数千の人が踊る、というだけでも感激でしたが、終わった後の参加者全員のやり遂げた笑顔が一番の感動でした。



式典演技振付監修者
(式典演技特別出演者)
はびねすダンス振付者

藤田 善宏

©上半身…阿部 章仁

福井が最高に輝いた日

2018年9月29日。まるで遠足前の子どものように朝早く目覚めてしまった僕は、ホテルのカーテンを一気に開けた。雨だ…。前日まではスッキリと晴れていたのに。こんな時に限って天気予報は当たる。でもまだ小雨だ。一縷の望みを抱きながら開会式会場の9.98スタジアムに向かう。だが非情にもどンドン雨足は強くなってくる。13時ちょうど。式典演技「アスリートたちへ贈る賛歌」がスタート。この演目は通常使用するような山車やバルーンなど派手な演出を極力控え、パフォーマー達の身体表現やダンスのみでスポーツの素晴らしさや選手達への応援などを表現したものだ。みんな雨でずぶ濡れになりながらも動きが小さくなる事は決してなく、間違いなく今までで最高の演技だった。それは肌寒い中最後まで観てくださった満員の観客の皆様、そしてテレビの前の方々にもきっと伝わったと思う。その光景を見つめながら僕の脳裏には、県庁の一室で何度も重ねた会議、雪が降る日の寒い体育館での演技指導、40度にもなろうかという炎天下でのリハーサルなどなど、準備期間のこの数年間にあった様々な出来事が一気にフラッシュバックしていた。さあ、ついに最後のシーン。約2100人で踊る「はびねすダンス」だ。これまでにこの国体開会式式典演技に関わって下さったたくさんの方への感謝を込めて踊りきる事が出来た。曲のサビ部分で観客の皆さんが青い手ぬぐいを振って下さった様子は、まるでそこだけスッキリとした秋晴れの青空のようだった。2018年9月29日。この日は福井県民にとって決して忘れることの出来ない一日になったと思う。



式典音楽作曲者

堀田 庸元

高く大空へ

福井しあわせ元気国体・大会の式典音楽を担当させて頂き、このような形でお手伝いできたこと、大変光栄に思います。式典音楽としての役割と同時に、その中にも福井らしさを出せたらと思いつきながら制作いたしました。

特に選手入場では、前回の福井国体の曲「この明るさの中へゆけ」と旧「福井県民歌」を1曲にまとめた行進曲や、五木ひろしさんの「ふるさと」や民謡「イチヨライ節」などをメドレーにした「福井県ゆかりの曲メドレー」など、県内の方にとっては馴染みのある、また県外の方にとってはもっと福井を知ってもらえる曲で選手達を迎えました。

そして今回、「高く大空へ」というオリジナルの行進曲も書かせていただきました。この大会に出場する選手達の期待、これまでの努力とこれからの活躍を、秋の澄んだ高い大空に重ね合わせ、選手達にエールを送る気持ちで音にしました。

残念ながら国体の開会式当日は台風直撃前日で生憎の雨模様でしたが、悪天候にも負けない堂々とした行進と、関係者の熱いパフォーマンスに、今回の国体・障スポの成功を確信致しました。今後たくさんの方々の想いが、高く大空へ羽ばたいていくことを願って。



式典音楽指揮者
新福井県民歌作曲者

小松 長生

『新福井県民歌』の天覧指揮を終えて

2018年9月29日の福井しあわせ元気国体総合開会式にて、碩学三好達治氏作詞による自作の『新福井県民歌』を、天皇・皇后両陛下はじめ皆様の前で天覧指揮することが出来ましたことは、指揮者・作曲家冥利に尽きる光栄な事と思っております。

本曲は2014年2月に作曲依頼を受け同年12月に新曲披露の運びとなりましたが、作曲にあたっての最初で最大のチャレンジは、三好達治氏の歌詞を理解し共感する、更には三好氏が思念するものを音で表現することでした。格調高い五七調で書かれ、万葉集にまで遡る語彙が散りばめられた歌詞は、一行毎に情景と心象を変え、音楽も行ごとにスタイルとオーケストレーションを変えました。第一番で例示します。

長江は野に横たはり(九頭竜川は野に横たわり)

小太鼓が拍を刻む勇壮な行進曲風。青雲の志も表現する。

青海は岬にうたふ(碧い荒海は、岬に波を砕けさせ音楽を奏でる)

「青海は一」と、日本海の荒海の美しさに感嘆している三好氏が居る。感動が長い音で持続されるなか、打楽器群が今度は、「びしり」と波が岩を打つ音を表現する。

国どころ越前若狭(生まれ故郷の越前若狭)

前半ヴァイオリンは休み、金管群が故郷への感謝と憧憬を聖歌風に荘厳に奏でる。「越前若狭」では、ヴァイオリンが唱和し、祈りから熱い思いへと変貌してゆく。

たたなはる山しうるわし(立て掛けた畳が重なり合うように連なった山々が麗しい)

熱い思いと故郷の大自然への感動は最高潮に達するため、勇壮に駆け上がる金管群と持続するメロディーを担う弦楽器を含めた総奏で情熱的に締め括る。

三好達治氏が三国で居を構えた場所は三国海水浴場を見下ろす高台で、日々変化する荒磯、泰然とした九頭竜川、そして澄み切った青空のものと奥越の山々をすべて愛でることのできる処でした。三好達治氏は、本当に感動できる心の持ち主だと私は感じ、語彙の解釈の先にある感動をどうやって音にしてゆかが私に託された仕事であると思えました。

しょ かん しゅう 所 感 集

両大会のあゆみ

所感集

募金・協賛

実行委員会



国体男女総合優勝
表彰状受領者
福井県選手団総監督

丹羽 治夫

「男女総合優勝」「女子総合優勝」

「男女総合優勝、福井県」の成績発表。大歓声の中、県民の皆様の思いがこもった表彰状をいただくことができました。厳しい練習や遠征、試合に取り組んできた選手や指導者、彼らの活動を支えた所属先やスポーツドクターなどの専門家スタッフ、県・各市町の大会運営関係者やボランティアの方々、ご声援いただいた多くの県民の皆様に関心から敬意と感謝を申し上げます。

8年前に国体誘致が決定されてから、全ての競技団体が目標を定め切磋琢磨したことで「チームふくい」の絆が深まり、男女総合優勝、女子総合優勝という素晴らしい成果に結びついたと思っています。50年ぶりとなる国体への県民の期待と選手の頑張りが見事に織りなされた瞬間でもありました。

各競技会場に駆けつけていただいた県民の皆様の熱い応援が選手に力を与え福井県が一つになった国体、この感動が今後の福井県スポーツ界の飛躍に繋がるよう頑張っていきたいと思います。



国体総合開閉会式
福井県選手団旗手
フェンシング 成年男子

徳南 堅太

織りなせた力と技と美しさ

男女の総合成績を合わせた「天皇杯」で福井県は1巡目国体以来50年ぶりの1位に輝き、女子総合成績の「皇后杯」では初めて1位を獲得。地元開催の国体に現役の選手として携われた事は本当に幸運で、さらに主将的な役割でもある「旗手」という大役を仰せつかりました。

プレッシャーもありましたが、フェンシング競技で目標であった成年男女アベック優勝を達成でき、天皇杯獲得に貢献出来たことを嬉しく思います。

この結果も福井県チーム各競技団体の選手の活躍のお陰というのは勿論、それ以上に監督・先生・コーチ・チームスタッフの献身的なサポートがあったからです。

国体開催の1年前に天皇杯獲得宣言をし、非常に時間が限られている中で、県スポーツ協会を始め、県全体を挙げての戦略的な強化策がバッチリ嵌ったお陰だと思っています。

また裏方としてご尽力頂いた大会運営関係者・ボランティアスタッフの皆様のご協力の賜物と深く感謝しております。そしてなにより県民の皆様の温かい応援があったからです。今回の結果は福井県が一丸となって全員で勝ち取った結果です。

今一度、選手団を代表致しまして感謝申し上げます。

本当にありがとうございました!!



国体総合開閉会式
選手代表宣誓者
なぎなた 成年女子

渡辺 啓乃

福井国体までの道のり

本県のなぎなたはつい3年前まで国体の入賞経験がなく、点数の獲得は難しいと言われていました。そこで、今までの稽古に加えて、体幹強化、強豪県への遠征、メンタルトレーニングなどを重ね、自分が勝つ姿を何度も頭の中でイメージして気持ちを作っていました。その結果、岩手国体で3位入賞、愛媛国体で準優勝と着実に力をつけていったと実感しています。

そして、長年目標にしてきた福井国体での優勝は、何よりも嬉しい自分への褒美でもあり、今まで支えて下さった方々への感謝の形でもあります。また、総合開閉会式では選手代表宣誓という大役を受け、あの大きな舞台上に立てたことも含め、全てが私の大切な財産となりました。

国体当日、なぎなた競技では希に見る満員の観客席。11回目の出場となった国体でしたが、こんなに沢山の方が来場し、力強い声援が飛び交う会場は初めてでした。本県の実業杯・皇后杯獲得の裏側には、このような県民の皆様の応援に支えられた選手が大勢いるはず。この場を借りて改めて御礼申し上げます。



国体天皇杯受領者
自転車 少年男子

市田 龍生都

一生の思い出として

地元福井で開催された国体は、私にとって忘れられない時間となりました。

福井国体開会式に先立って行われた自転車競技において福井県選手団第1号の優勝を飾ることができ、また自転車競技種目別天皇杯得点で過去最高の112点で総合優勝を達成できたことは、私にとっても福井県の自転車競技にとっても本当にうれしい思い出となりました。当日の地元ならではの応援の歓声は、今でも思い出すと気持ちが奮い立ちます。

「チーム福井」として中学校3年生から自転車競技を始め、仲間と共に厳しい練習を積み重ねて勝ち得た栄光は、まさに感無量であります。

さらに総合閉会式では、天皇杯受領者として大役に抜擢して頂き大変光栄に思うと同時に、これまで多くの方々に支えられ、応援して頂いたことを実感する機会となり、感動の気持ちでいっぱいになりました。

私にとって最高の思い出となった地元国体でしたが、この思いを胸にしてさらなる挑戦を続け、次の目標であるオリンピックの大舞台で活躍できるように頑張りたいと思います。



国体女子総合優勝
表彰状受領者
ホッケー 少年女子

佐々木 杏果

「ありがとう」福井しあわせ元気国体

50年ぶりの開催となった「福井しあわせ元気国体」では、これまでにないくらいの大歓声の中での戦いが繰り広げられました。その大歓声はプレッシャーにも感じましたが、私達選手に大きな力を与えてくれました。だからこそ、天皇杯と皇后杯の獲得が出来たのだと思います。

総合閉会式では、女子総合優勝の賞状受賞者という大役に抜擢して頂き大変光栄に思い、私の一生の宝物になりました。演壇に立ち賞状を大勢の前で掲げた時、これまで厳しい練習や困難な壁にぶつかっても、頑張って乗り越えてきて良かったと感じ、感動しました。

私は、ホッケー競技少年女子の部で優勝することが出来ました。仲間を信じ、気持ちを1つにして最後は笑顔で締めくくることが出来ました。最高の仲間と最高の舞台、そして支えて下さった方々に感謝の気持ちを送りたいと思います。今後も更に活躍する選手として成長できるよう頑張ります。



国体皇后杯受領者
ボート 少年女子

荻野 紗和

あの感動をもう一度

「国体二連覇」私は、福井国体に出場することが決まった時から、この目標を目指しました。今年は地元開催ということで、たくさんの人が応援してくださいました。だからこそ、絶対に負けられない戦いだと思いました。

昨年この種目で優勝したことや地元での開催ということで大きなプレッシャーはあったことは事実です。しかし、そのプレッシャーをクルーやチームではねのけ、少年種目すべてで決勝に進出することができました。私が出場した舵手付きクォドルブルは、決勝レースにおいて、クルー全員が持っている力を全て発揮し、優勝することができました。目標としていた「国体二連覇」を達成することができとても嬉しかったです。

総合閉会式では、福井県初となる皇后杯受賞の受領者に抜擢され、とても光栄で、自分の人生に刻まれる大きな経験となりました。改めて今まで努力し、頑張ってきて良かったと感じました。それと同時に、支えてくださった方々や応援してくださった方々に感謝の気持ちがこみ上げてきました。

この福井国体での経験やチーム福井が躍動した瞬間を忘れず、これからは成年チームとして新たに頑張っていきたいと思います。多くの応援をいただき本当にありがとうございました。

しょ かん しゅう 所感集



国体総合開会式
炬火走者
ハンドボール 少年男子

前田 紗良

感謝

私は、「福井しあわせ元気国体」で優勝するために、高校三年間練習をしてきました。その舞台上、最終炬火走者という大役を任せて頂き、大変光栄に思います。

ハンドボール競技は、早期開催であり、総合開会式時には、終わっていましたが、他競技の健闘を祈る思いで、炬火の点火をさせて頂きました。その結果、「チーム福井」として、勝ち取った天皇杯は、とても感動しました。

試合では、たくさんの方が会場に応援に来て下さり、多くの方に支えられてきたことを実感し、感謝の気持ちでいっぱいです。優勝には、一步及ばず、準優勝でしたが、地元福井国体で、多くの経験をする事ができ、多くのことを学びました。この経験を活かして、次のステージでも感謝の気持ちを忘れず、頑張りたいと思います。

本当にありがとうございました。



国体総合閉会式
炬火走者
水泳

近江 優菜

福井しあわせ元気大会に参加して

今回、初出場させていただいた「福井しあわせ元気国体・大会」において、私は国体から大会へ炬火を引き継ぐ、という大役を務めさせていただきました。

史上初の「国体と障スポの融合」という大きなテーマに関わることができて、とてもうれしく思いましたが、当日は大変緊張しました。あまりの緊張に夢中で炬火を運びましたが、その間のことはあまり覚えていないというのが率直な感想です。式典が始まるまでは「失敗しないように」と少し気負いすぎてしまいましたが、終わってやっと周りを見る余裕が出来ました。炬火の引継ぎを見てくださった大勢の方に恥じない試合をしようと思ったのを覚えています。

大会では50m自由形で大会記録を出すことを目標にしていたがかないませんでした。ですが友人たちを含め、たくさんの人たちに泳いでいる姿を見てもらえて、これから先の大きな目標の励みになりました。

今大会に出場するにあたり、たくさんの方々にお世話になりました。ありがとうございます。パラリンピック出場という更なる夢に向けて一層練習に励んでいきます。



障スポ開会式
福井県選手団旗手
車いすバスケットボール

北風 大雅

感謝

自分は学業のため石川県で生活しています。その中で地元開催となった、福井しあわせ元気大会で旗手という大役をくださった事に感謝し、誇りに思っております。

旗手の話をいただいた際に、自分はなんとなく引き受けました。ですが、大会が近づいていくうちにこのご縁の大きさをひしひしと感じていきました。開会式で県旗を持ち、福井県選手団の先頭で入場した際に、県旗からモノの重みではないものを感じ、そして多くの来場者の声を聞くことで旗手を務めたことに誇りをもちました。選んでいただいた事に大変感謝しております。競技の結果としては1回戦敗退に終わりました。負けてしまいましたが、大会までの練習や大会での経験は今後の自分の人生においてターニングポイントになりました。今大会に関わってくださったすべての方々に感謝しております。ありがとうございました。